

野研びより

鳥編 3号

野外生物生態調査研究部 鳥班

2016年4月



図1. ソヨゴにとまるヒヨドリ(大学敷地内にて 2016/1/10 撮影)

ヒヨドリ(鶇) *Hypsipetes amaurotis*

スズメ目 ヒヨドリ科 ヒヨドリ属¹⁾

- 体長27.5センチメートル¹⁾。
- 体は灰褐色で頭は青灰褐色味が強く、耳羽は褐色¹⁾。小笠原諸島や南西諸島などの亜種は全体的に濃色。
- 鳴き声は「ヒーヨ!ヒーヨ!」などと甲高く聞こえ、和名はこの鳴き声に由来するという説がある^{1) 2)}。飛びながら「ピーピー」と鳴く。
- 富山県砺波市の鳥に指定されている²⁾。

飛ぶときは数回羽ばたくと翼をたたんで滑空するパターンを繰り返して飛ぶ、「波状飛」である²⁾。波状飛をする代表的な鳥は、ヒヨドリのほか、セキレイ類、モズ、コゲラなどがいる。

以前は、越冬のため韓国などから渡ってくる「冬鳥」だったが、環境に順化し今では「留鳥」へと変わっていった³⁾。夏は繁殖場所の山地、越冬場所の平地へ移動する。北海道で繁殖したヒヨドリたちのほとんどは、10月ごろになると越冬のため、本州以南に移動する。

春夏は(特に夏は繁殖期でもあるので)、主に虫をつまんで食べているが、虫が減る秋以降は木の実(センダン、カキなど)を食べるようになる⁴⁾。また、ツバキやサクラなどの花の蜜を吸ったり、ミカンやリンゴの果物を好んで食べる²⁾。ときに集団で畑に現れ、キャベツやブロッコリーなど農作物を食い荒らすこともあり、農家には嫌われてしまう。

食欲旺盛なため、木の実を次々に丸呑みしては未消化のまま排泄されることも多く、種子散布をしてくれる鳥としても有名である³⁾。

図2. サクラにとまるヒヨドリ(大学敷地内にて 2015/10/15 撮影)



◆分布 世界的に見れば、実は珍しい鳥！

日本、サハリン、朝鮮半島南部、台湾、中国南部、フィリピンの北部(ルソン島)に分布する。日本国内では留鳥または漂鳥としてごく普通に見られるが、ほかの地域での生息数は少ない³⁾。

日本国内ではごく普通に観察されるが、分布がほぼ日本国内に限られているため、日本を訪れる海外のバードウォッチャーにとってはぜひ観察したい野鳥のひとつとなっている²⁾。

基本的にヒヨドリは渡り鳥に分類されている⁵⁾。夏は涼しい北海道からサハリンまで渡り、冬は南の沖縄から韓国南部、台湾、フィリピン北部あたりまでがエリアとされている。昔から日本を中心とする極東が生息地であった。ところが、1970年頃からその生態に変化があらわれる。留鳥としてその場所にとどまる例が増えた。最初は沖縄と言う話であったが、最近は北海道でも冬を越すヒヨドリもいるようである。

もちろん季節移動をするヒヨドリもいるが、その多くは日本国内に限られるようになった。結果、日本だけでしか観賞できない野鳥ということになった。



図3. 枯木にとまるヒヨドリ
(大学敷地内にて 2015/10/15
撮影) (上)



図4. ソヨゴにとまるヒヨドリ
たち(大学敷地内にて 2016/1/10
撮影) (右)

参考文献

- 1) 「フィールドガイド 日本の野鳥」 財団法人 日本野鳥の会
- 2) ヒヨドリ- Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%A8%E3%83%89%E3%83%AA>
- 3) 野鳥の里「春夏秋冬」 第17話 世界的な珍鳥「ヒヨドリ」 <http://www.buyo-gas.co.jp/exchange/public/yatyou/yatyou17.html>
- 4) 日本経済新聞 実は日本近辺にしかいないヒヨドリの不思議 http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG2505L_V20C13A9000000/
- 5) 原野の言霊 <http://blog.goo.ne.jp/yashiki2008/e/406cf431ed26c0ec4c651624f5744e91>